

香川大学教育学部 附属高松小学校



実社会との接点を重視した 課題解決型学習プログラムに係る実践研究

【開発するプログラムの概要】

小学校段階において主権者として必要な資質・能力の育成を目指した、**社会科**を核とした教科学習プログラムの開発

※令和4年度より研究開発学校の指定を受け、異学年集団での社会とつながるプロジェクト活動として「**ちょうせん**」の時間を設けている。



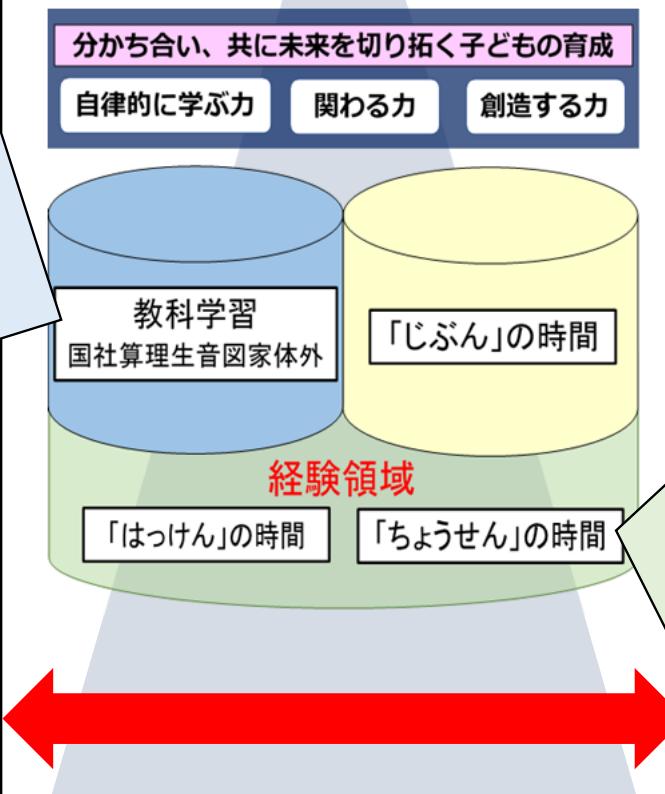
本校の研究の迫り方

主権者として必要な資質・能力を育む教育の推進

持続可能な社会づくりに向かう社会参画意識や社会形成に参画する態度を育む

社会科

- ① 主権者として必要な資質・能力の設定
- ② 主権者として必要な資質・能力を育む問題解決プロセスの構想
- ③ 主権者として必要な資質・能力を育む社会科カリキュラム構想



「ちゅうせん」の時間

- ① 異学年集団による社会参画型プロジェクト活動の構想
- ② 主権者として必要な資質・能力を育む問題解決プロセスの構想
- ③ 社会科と「ちゅうせん」の時間との関連の意識化

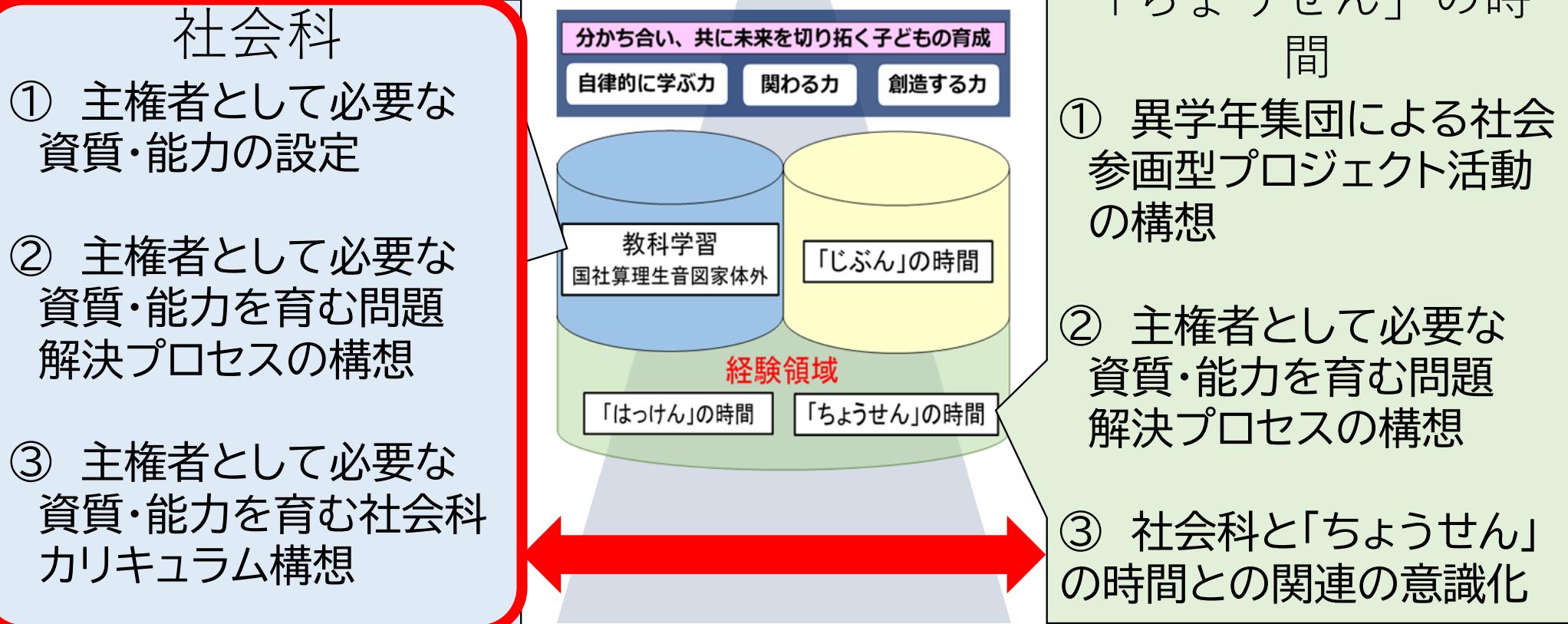


本校の研究の迫り方

主権者として必要な資質・能力を育む教育の推進

持続可能な社会づくりに向かう社会参画意識や社会形成に参画する態度を育む

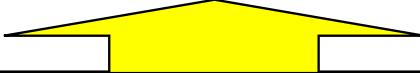
「ちょうせん」の時間





主権者として必要な資質・能力について

- ①公共的な事柄に自ら参画しようとする意欲や態度
- ②合意形成・意思決定する力
- ③多角的に考察し、公正に判断する力
- ④根拠をもって主張し、他者を説得する力



〈国家・社会の形成者として求められる力〉

- 論理的思考力(とりわけ根拠をもって主張し他者を説得する力)
- 現実社会の諸課題について多面的・多角的に考察し、公正に判断する力
- 現実社会の諸課題を見出し、協働的に追究し解決(合意形成・意思決定)する力
- 公共的な事柄に自ら参画しようとする意欲や態度

〈学習方法〉

- 正解が一つに定まらない問い合わせに取り組む学び
- 学習したことを活用して解決策を考える学び
- 他者との対話や議論により、考えを深めていく学び

主権者としての資質・能力を育む問題解決のプロセス

①学習問題の設定、活動の見通し

単元の内容について大まかに調べ、
単元の課題と解決への見通しをもつ。



僕たちが使っている水は、
どこからきて、使った後は
どうなるのだろう。

②現状の理解

課題に対する自律的な学びを通して、
選択・判断の根拠となる知識を獲得する。



学校外の人に
話を聞くと、
よく分かるね。

だんだん分かって
きたぞ。次は〇〇
を調べよう。

③深まった課題の設定

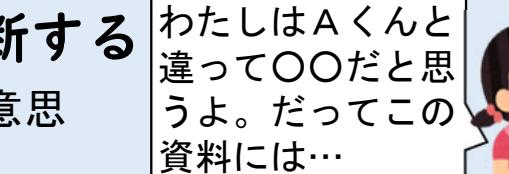
その単元の本質に迫るために、
焦点化して深く追究する課題を設定する。



あれ!?
調べてきた
ことと違うぞ!
どうして汚れた水
を海に流すの!?

④多角的に考察、構想、選択・判断する

社会に見られる問題に対して集団としての意思
決定を行い、学校外の人に提案する。



わたしはAくんと
違って〇〇だと思
うよ。だってこの
資料には…
ぼくは最初〇〇と
思ったけど、みん
なの話を聞くと…

⑤自分なりの最適解の表出

最終的な自分の最適解を表現する。



様々な立場の方の話を聞いたり、友達と
話し合ったりしたから、自分の考えが
深まったよ!

問題解決のプロセス





社会科カリキュラム構想案

目標		それぞれの学校が設定する育てたい資質・能力			
		教科	知識・技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力・人間性
第3学年	地 域 学 習	多角的に考察し、構想する力	社会への関わり方を選択・判断する力	根拠をもって主張し、他者を説得する力	多様な他者と合意形成・意思決定する力
		内容I くらしと国土・産業	内容II くらしと政治・文化	内容III くらしと健康・安全	
	わたしのまち みんなのまち	■学校のまわり ■高松市のようす ■はたらくとわたらしたちのくらし ■農家の仕事／工場の仕事 ■店ではたらく人	高松市と人々のくらしのうつりかわり	くらしを守る ■火事からくらしを守る ■事故や事件からくらしを守る	
	わたしたちの県	■日本地図を広げて ■香川県の広がり ■特色ある地域と人々のくらし ■国際交流が盛んな直島町 ■うちわをつくるまち・丸亀 ■自然を生かしたまちづくり三豊市	きょう土の伝統・文化と先人たち ■残したいもの 伝えたいもの ■ふるさとの発展につくした人	住みよいくらしをつくる ■水はどこから ■ごみのしりとり利用	
	わたしの国土	■世界の中の国土 ■国土の地形の特色 ■低い土地のくらし／高い土地のくらし ■国土の気候の特色 ■あたたかい土地のくらし／寒い土地のくらし			
	わたしの生活と食料生産	■くらしを支える食料生産 ■米づくりのさかんな地域 ■水産業の盛んな地域 ■これからの食料生産とわたしたち			
	わたしの生活と工業生産	■くらしを支える工業生産 ■自動車をつくる工業 ■工業生産を支える輸送と貿易 ■これからの工業生産とわたしたち			
	情報化した社会と産業の発展	■情報産業とわたしたちのくらし ■情報を生かす産業 ■情報を生かすわたしたち			
	わたしの生活と環境	■わたしたちの生活と森林			
	世界の中の日本	■日本とつながりの深い国々	わたしの生活と政治 ■わたしたちのくらしと日本国憲法 ■国の政治のしくみと選挙 日本の歴史 世界の中の日本 ■世界の未来と日本の役割	わたしの生活と環境 ■自然災害を防ぐ ■環境を守るわたしたち	
	政治・歴史学習			わたしの生活と政治 ■子育て支援の願いを実現する政治／震災復興の願いを実現する政治	
					中学校社会科へつなぐ

3つの内容のまとめ

内容I くらしと国土・産業

「持続可能な社会」の創り手を育てるために

～くらしの中で、持続可能な国土環境（自然環境・社会環境）保全、資源の活用を図る人づくり～

内容II くらしと政治・文化

私たちの「伝統・文化」を守り、受け継ぐために

～国際社会、国家、地域社会の一員としての自覚と責任をもち、行動できる人づくり～

内容III くらしと健康・安全

私たちの「いのち」と「くらし」を守るために

～住みよいくらし（健康・安全）づくりに参画できる人づくり～

単元の学びの連続性・接続を生む

教師が意識することで、授業づくりが変わる

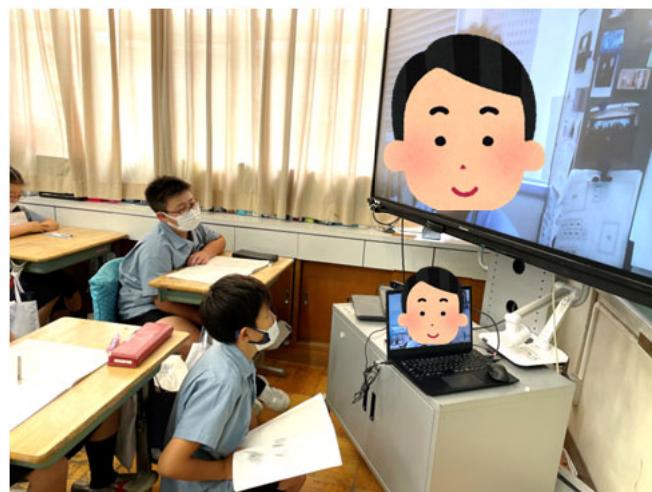
4年間を通して主権者として必要な資質・能力を育む



4年「水の循環～上水道と下水道～」

社会科

- ① 主権者として必要な資質・能力の設定
- ② 主権者として必要な資質・能力を育む問題解決プロセスの構想
- ③ 主権者として必要な資質・能力を育む社会科カリキュラム構想



問題解決のプロセスの各段階において育みたい力

問題解決のプロセス

①学習問題の設定、活動の見通し

単元の内容について大まかに調べ、
単元の課題と解決への見通しをもつ。

自ら参画しようとする意欲や態度

②現状の理解

課題に対する自律的な学びを通して、
選択・判断の根拠となる知識を獲得する。

③深まった課題の設定

その単元の本質に迫るために、
焦点化して深く追究する課題を設定する。

合意形成・意思決定する力

④多角的に考察、構想、選択・判断する

社会に見られる問題に対して集団としての意思決定を行い、学校外の人に提案する。

根拠をもって相手を説得する力

⑤自分なりの最適解の表出

最終的な自分の解を表現する。

多角的に考察し、公正に判断する力

自ら参画しようとする意欲や態度



課題の設定、活動の見通し



水は、どのように送られてきて、使った後はどこへいくのだろう。水がたどる道筋を流れ図にまとめて、そのひみつを探ろう。



II 現状の理解、問題点の把握





III 深まった課題の設定

選択・判断のきっかけを生む深まった課題づくり

第4時～第10時

飲料水を供給する事業について調べる(上水道)

第11時～第14時

下水を処理する事業について調べる(下水道)

課題 深まった

選択・判断

第15時～第19時

季節別運転管理の取り組みについて調べる(下水道)

人々が安全できれいな水をいつでも飲むことができるように、様々な工夫や努力をしているね。

飲料水と同じで、安全できれいな水にしてから海に放流しているよ。

あれ！？でも近年では、完全にきれいではない水を放流することもあるみたいだ！いったいどうしてだろう！？

意識のずれ

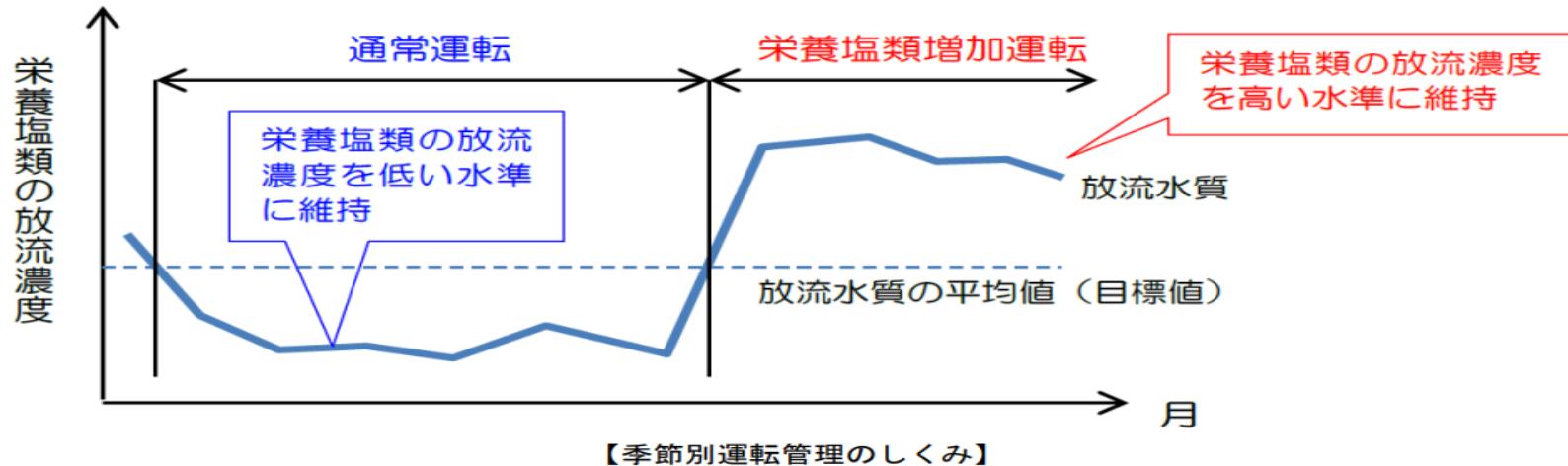
季節別運転管理の取り組みは、まだ試験的みたいだ。これから先、この取り組みをどうしていけばよいかな。

意識のずれを生むことで、深まった課題を設定し、社会に見られる課題に対して自分の考えを選択・判断する状況をつくる。



III 深まった課題の設定

下水処理場の季節別運転管理の取り組み



主権者として必要な資質・能力を育むために適した教材のポイント

- 学習内容の深い理解につながる
- 子どもたちにとって、「なぜ?」「どうして?」といった追究意欲が高まる
- よりよい在り方を考えた時に、正解が1つに定まっていない
- 多様な立場からの多様な考え方につながる
- よりよい社会の在り方を考えることにつながる



IV 多角的に考察、構想、選択・判断する

実社会(学校外の人)に向けて提案する状況づくり



海苔の色落ち



海の水質悪化



どうすればいいか考えて、
自分たちの考えを伝えたい！

自分たちが考えたことを実社会(学校外の人)に向けて提案する状況をつくり出すことで、子ども同士の話し合いを通して、主権者として必要な資質・能力の育成につなぐ。



IV 多角的に考察、構想、選択・判断する

世の中の様々な立場の考えに触れることができる状況づくり

下水処理場

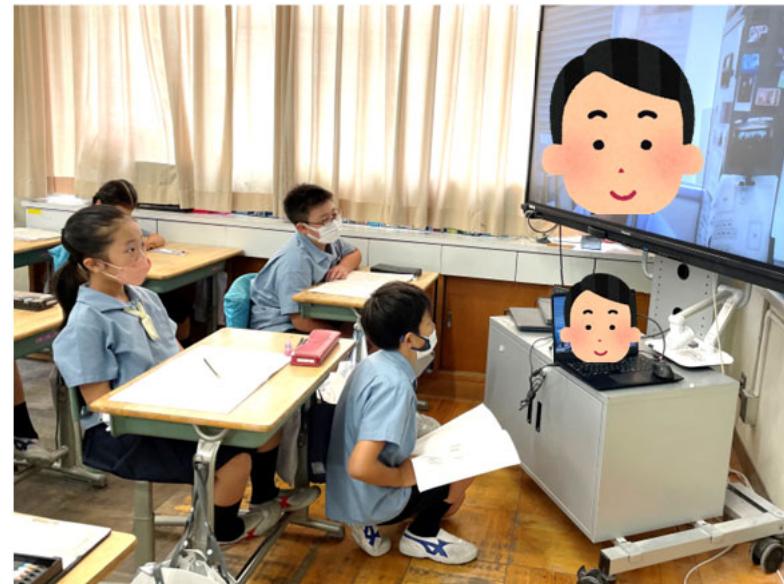
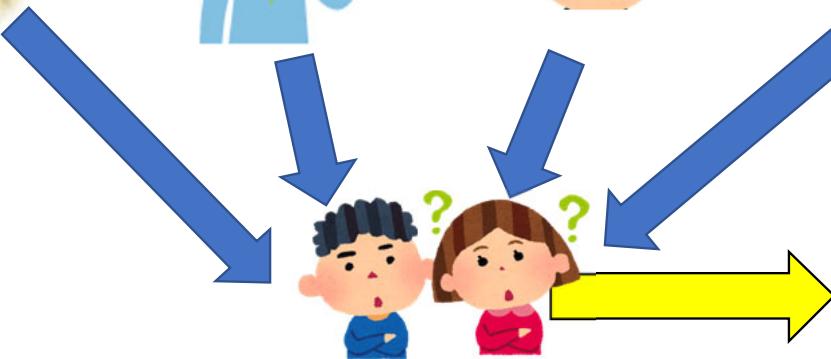
県漁連

瀬戸内圏
研究センター

保護者



自分なりの
選択・判断



オンラインで話を聞く様子

様々な立場を踏まえて多角的に考察することを通して、自分なりの解がもてるようになり、話し合いにつないでいく。



IV 多角的に考察、構想、選択・判断する

季節別運転管理についての自分の考えを伝え合う



根拠をもって主張し、
他者を説得する力



- ・資料や体験したこと、聞いたこと等を根拠にして考えを伝える姿
- ・いくつかの考えを比較し、どちらがよいかを説明する姿

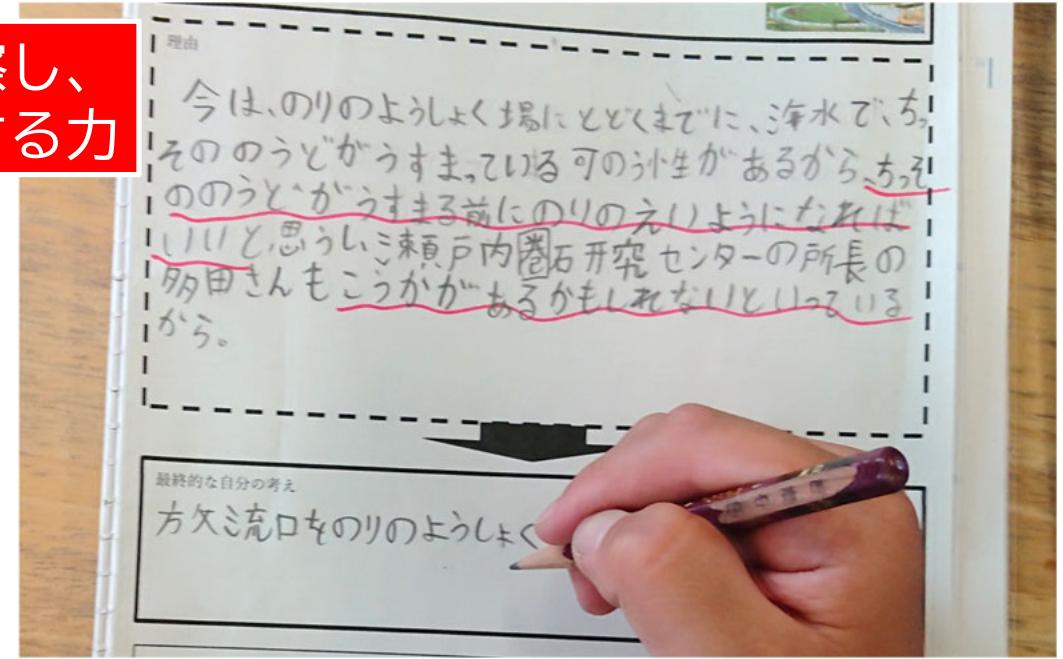


IV 多角的に考察、構想、選択・判断する

様々な立場の人の考えを踏まえて選択・判断する



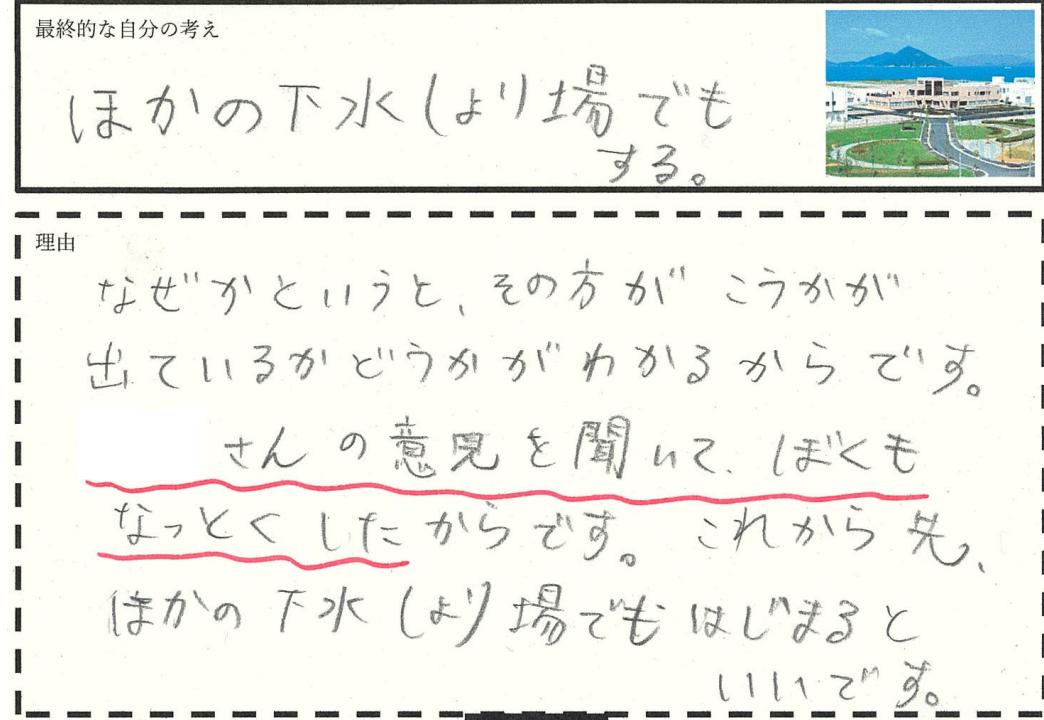
多角的に考察し、
公正に判断する力



- ・様々な立場の人の考えを比較しながら、自分なりの考えをもつ姿
- ・友達の考えを聞いて、柔軟に自分の考えに取り入れる姿



▼ 自分なりの最適解の表出



集団での意思決定を踏まえた上で、最終的な自分の考え方を書き綴っていく。



評価について

アンケート項目

- ①地域や社会のできごとに、きょうみや関心がある。
- ②学校外の人とのかかわりは、自分の学びのやくにたっていると思う。
- ③どうすれば地域や社会をよりよくできるかについて、考えている。
- ④わたしが考えていることが、地域や社会のやくにたつことがあると思う。
- ⑤地域や社会をよりよくするために、自分もなにかをしたいと思っている。

①社会への興味・関心

②実社会と関わる必要感

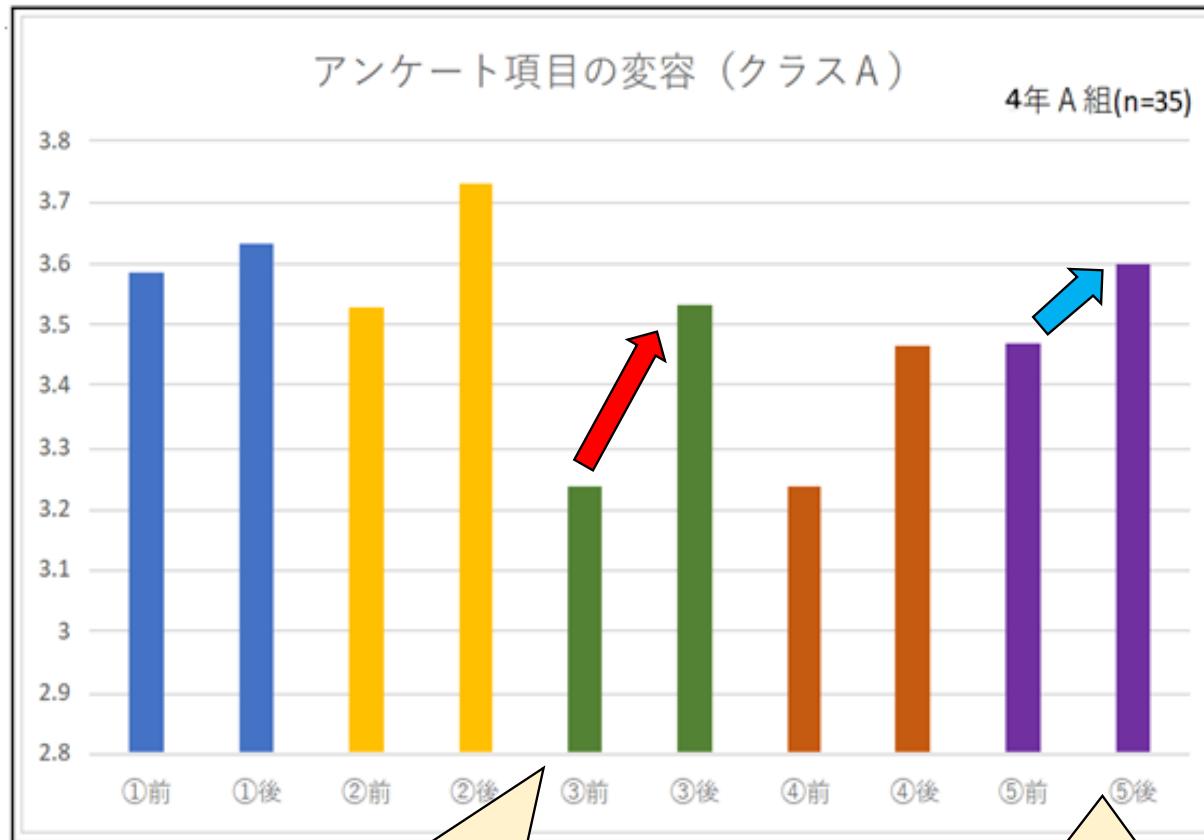
③よりよい社会づくりへの意欲

④学びの有用感

⑤社会参画への意欲



評価について



③よりよい社会
づくりへの意欲

⑤社会参画への
意欲



3年「農家の仕事」



学習指導要領で、選択・判断することが求められていない内容においても、主権者として必要な資質・能力を育むことを目指し、実践を行った。



課題の設定、活動の見通し

ブロッコリー生産量ランキングから問い合わせを見出す



「農家さんは、どのようにたくさんのおいしいブロッコリーを作っているのだろうか？」という学習問題を設定した。



II 現状の理解、問題点の把握

体験活動の充実「ブロッコリーづくり」「ブロッコリー農家の見学」

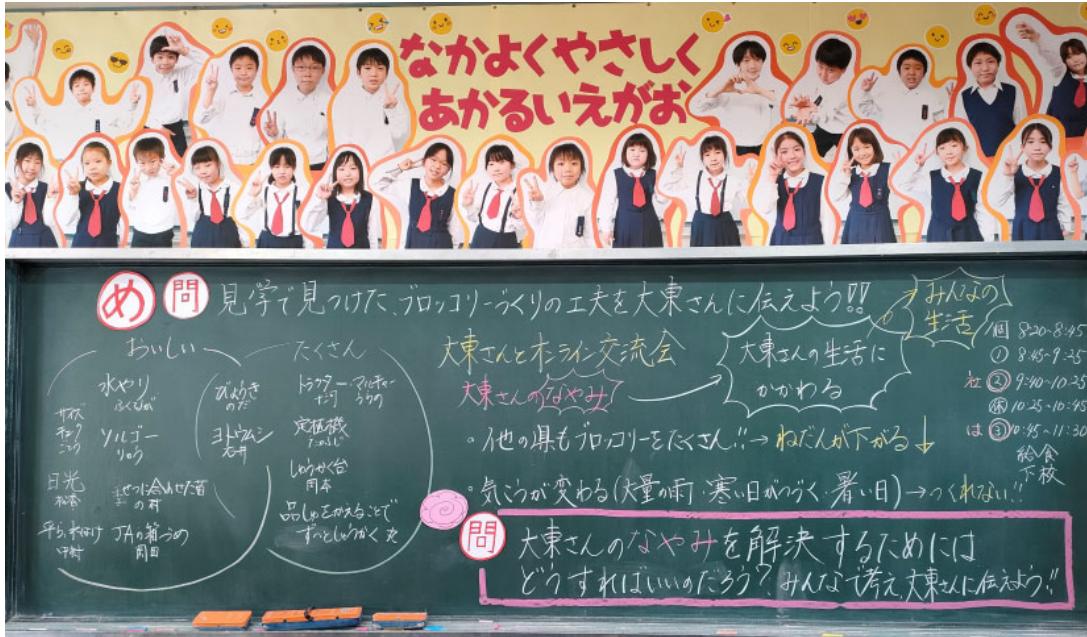


ブロッコリー農家の見学や、高松市農林水産課の出前授業を行うとともに、自分たちでブロッコリーを育てることで、農家さんの工夫や苦労を、実感を伴って理解できるようにした。



III 深まった課題の設定

深まった課題の設定「農家さんの切実な悩みを聞く」



「**プロッコリー農家が抱える切実な課題を知ることで、子どもたちは「農家さんが今後も農家を続けるためにはどうしたらいいのだろう**」という深まった課題を設定した。



IV 多角的に考察、構想、選択・判断する

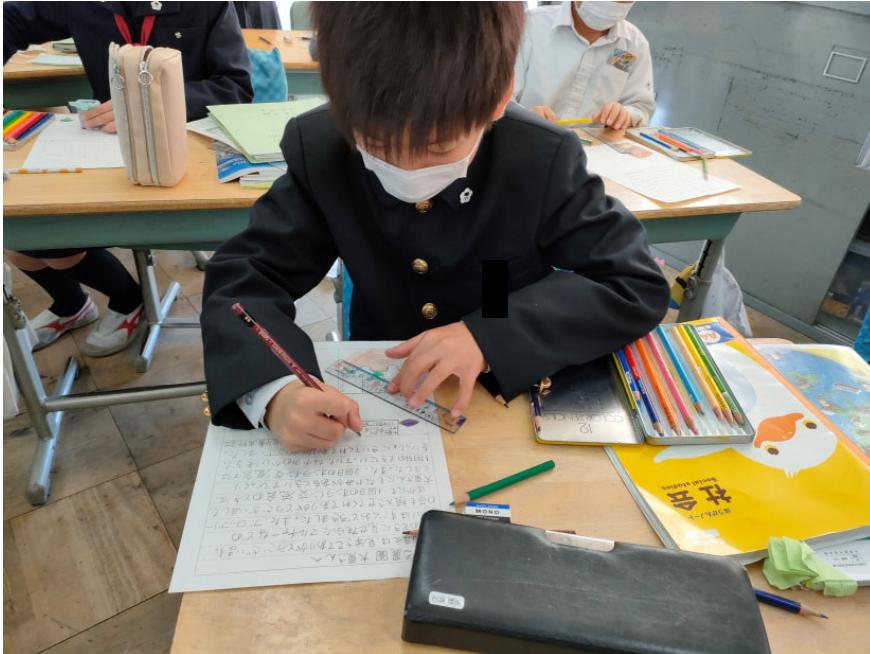
実社会に向けて提案する状況づくり「農家さんへの提案」



農家さんに提案するアイデアを一人一人がもち、根拠をもつて意見を語った。全体での吟味を通して、よりよいアイデアに修正していく。

↙ 自分なりの最適解の表出

これまでの学びをもとに、最終的な自分の考えをもつ

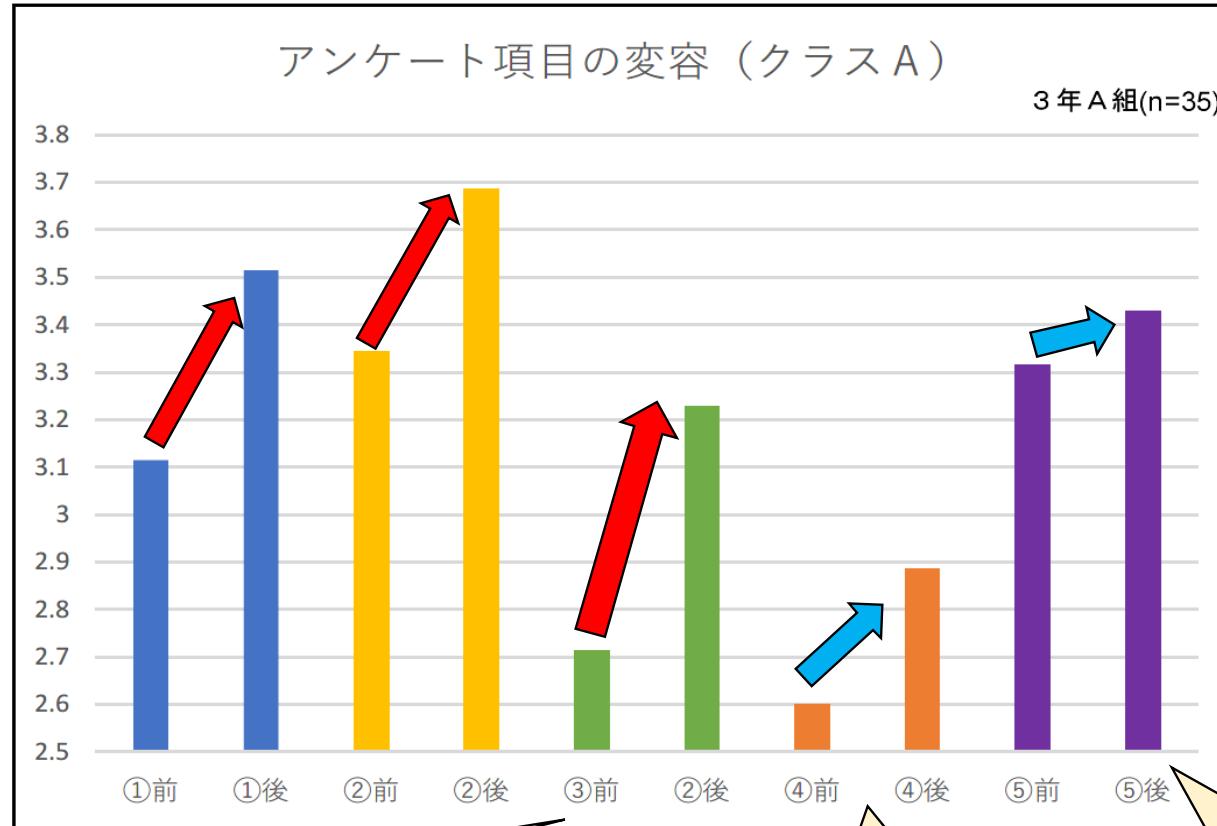


	<h1>冬によくしかかできる作物を育て、売る</h1>
<p>提案すること 文章やイラストでもOK</p> <p>冬寒すき!!</p>  <p>でも、冬によくしかかできる 野菜を売れば お金</p> <p>だけど、冬によくしかかできる の、何? 土地は足りる?</p> <p>冬によくしかかかれるのは、温 州やかん、野菜:ミニトマトなどなど たくさんあります</p>  <p>土地はどうする? 土地</p> <p>土地かまぼこ? まぼこの皮 色々な色の野菜など、カブ 地図、ヤシのうOK!</p>	<p>提案する理由</p> <p>私が上のようなことを提案する理由は、大東さんは、この前、200mでつながった時やけがあると言っていた。3つの内の1つが、冬が寒すぎて、とれない月があるということです。なので、冬に育つ作物を育て、しかも時季に売ればいいのでは?と、私は思いました。それでぜひ、おすすめします。</p>
	<p>これで大東さんもなっとく!!</p> <p>冬によくしかかかれるのが、温州りんご。 1千円。ミニトマトとしょうかんしましたが、これはちゃんと高松産ごじまん品出回りフレンチーにかけてあります。 土地では、大東さんの畠のまわりに、色々な土地があります。たまかかんりしていると思うので、その人ときょうかしてみてはいかがですか?</p>

多様な意見を聞くことで、自分の提案に不十分な点を自覚したり、友達の提案の良い部分を自分の意見に生かそうとしたりする姿が見られた。



評価について



③よりよい社会
づくりへの意欲

④学びの有用感

⑤社会参画への
意欲



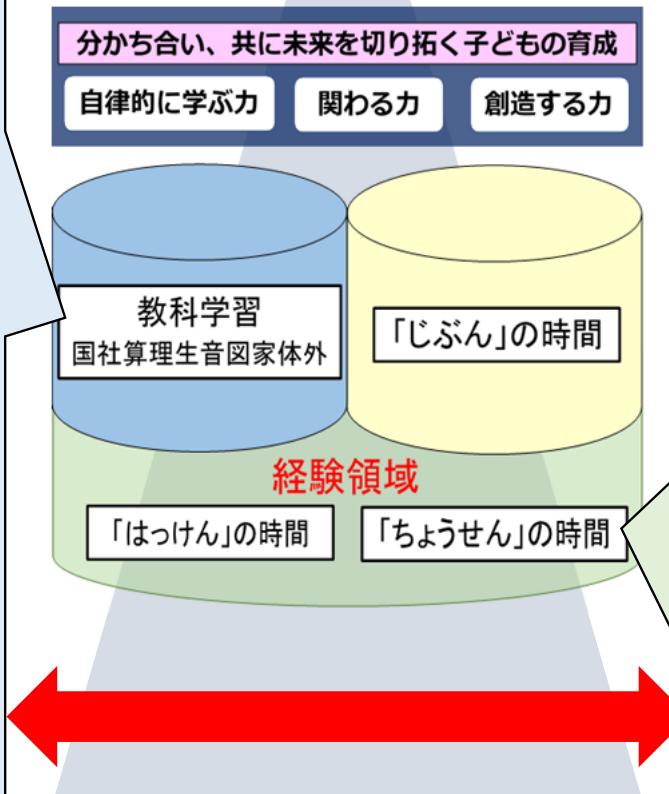
本校の研究の迫り方

主権者として必要な資質・能力を育む教育の推進

持続可能な社会づくりに向かう社会参画意識や社会形成に参画する態度を育む

社会科

- ① 主権者として必要な資質・能力の設定
- ② 主権者として必要な資質・能力を育む問題解決プロセスの構想
- ③ 主権者として必要な資質・能力を育む社会科カリキュラム構想



「ちゅうせん」の時間

- ① 異学年集団による社会参画型プロジェクト活動の構想
- ② 主権者として必要な資質・能力を育む問題解決プロセスの構想
- ③ 社会科と「ちゅうせん」の時間との関連の意識化



「ちょうせん」の時間について



- 各学年ならではの感性や視点が学びの深まりにつながっている
- 異学年学級は一人一人のよさを認め合う個性化された空間になっている
- 学年を超えた教え合いや学び合いが充実している

「今後の主権者教育の在り方」を具現化した活動であると捉えている。

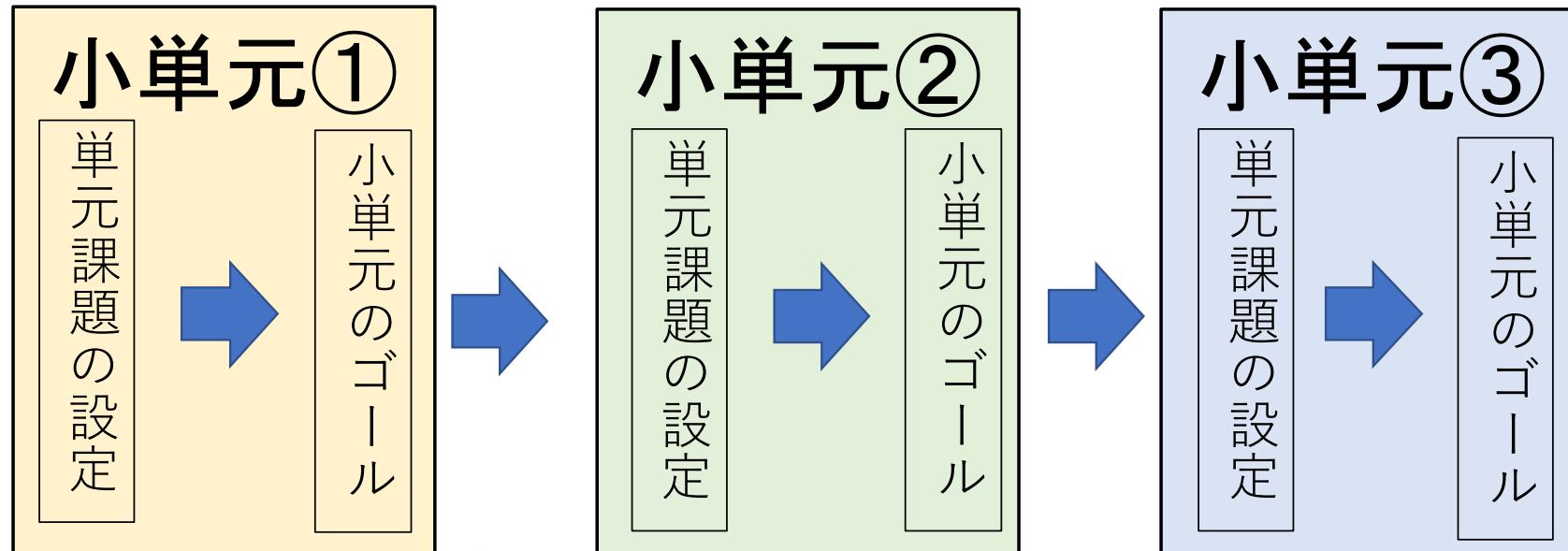
異学年集団での社会とつながるプロジェクト活動の構想



- ・1年間、継続的に実社会とつながりながらプロジェクト活動を進めていく。
- ・社会科を核とした教科学習との有機的な関連を図る。

主権者として必要な資質・能力を育む問題解決プロセスの構想

年間を通した単元課題の設定



年間を通した単元のゴール



小単元の中での問題解決プロセス

①学習問題の設定、活動の見通し

単元の内容について大まかに調べ、
単元の課題と解決への見通しをもつ。

②現状の理解

課題に対する自律的な学びを通して、
選択・判断の根拠となる知識を獲得する。

③深まった課題の設定

その単元の本質に迫るために、
焦点化して深く追究する課題を設定する。

④多角的に考察、構想、選択・判断する

社会に見られる問題に対して集団としての意思
決定を行い、学校外の人に提案する。

⑤自分なりの最適解の表出

最終的な自分の解を表現する。

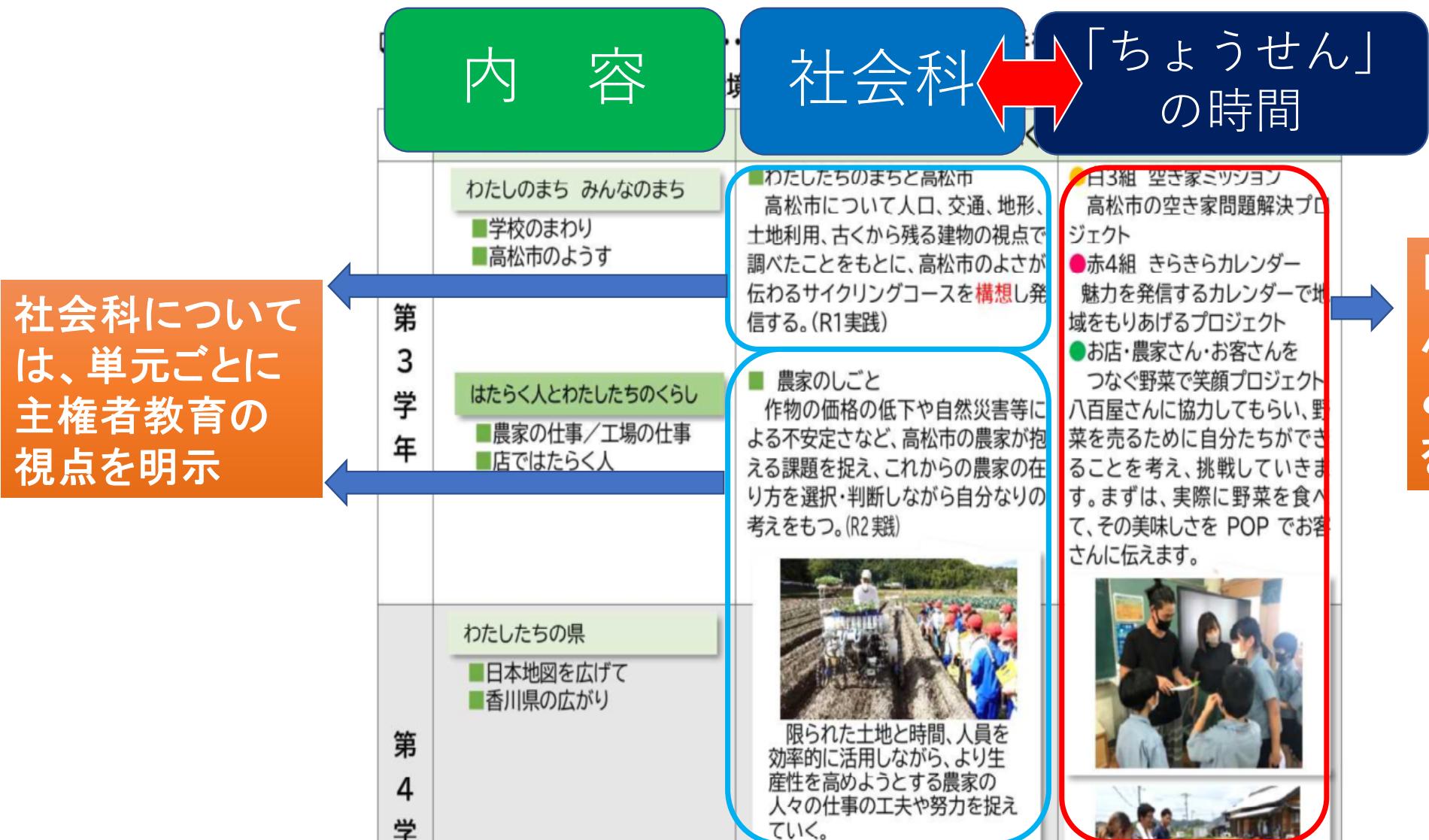
問題解決のプロセス



赤4組 「みんなで実現！地域に愛される玉藻公園！」 小プロジェクト①「玉藻公園の魅力を体験して、校内に発信しよう！」(全 25 時間)

段階	時	学習活動
I 「課題の設定、活動への見通し」	2 時間	<ul style="list-style-type: none">○玉藻公園について知っていることを話し合う。○玉藻公園の魅力を発信するための、小プロジェクトの課題を立てる。 <p>【小プロジェクトの課題】 玉藻公園の魅力を調べて、感じた魅力を校内で発信しよう！</p>  <p>協同してプレゼンをつくる様子</p>
II 「現状の理解、問題点の把握」	9 時間	<ul style="list-style-type: none">○玉藻公園について、タブレット等で調べ、分かったことをノートにまとめる。○玉藻公園について PR するプレゼンやチラシをつくり、校内に発信する。○プレゼンやチラシを見てくれた人にアンケートをとる。
III 「深まった課題の設定」	1 時間	<ul style="list-style-type: none">○アンケートに書かれていた、友達や保護者からの意見を知り、PR の方法について話し合う。 <p>【深まった課題】 玉藻公園の魅力がもっと伝わるように、体験して感じたことを入れてPRしよう。</p>  <p>ガイドさんに案内してもらう様子</p>
IV 「多角的に考察、選択・判断」	10 時間	<ul style="list-style-type: none">○ガイドさんに案内してもらいながら、玉藻公園を散策する。○城舟体験やタイのえさやり体験をする。○体験したことの中から、何を魅力として発信すればよいかを選択・判断する。○自分が感じた魅力を入れたプレゼンやチラシ等を制作し、校内で PR する。
V 「クラスとしての最適解の表出」	3 時間	<ul style="list-style-type: none">○これまでの活動で感じた玉藻公園の魅力について話し合う。○PRのために制作した作品やアイデアを、玉藻公園管理事務所長の岡さんに見ていただき、意見をもらう。  <p>岡さんに意見をもらう様子</p>

社会科年間指導計画(一部抜粋)





「ちょうせん」の時間のプロジェクト

うれSEA♪たのSEA♪すばらSEA♪
3 SEAスマイルカンパニー

子どもたち自らが海にじっくりと関わり、持続可能な瀬戸内海の環境保全について考え、発信していくプロジェクト



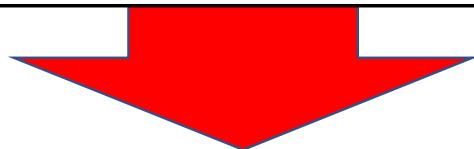
3 SEA スマイル カンパニーの問題解決プロセス



小単元①「瀬戸内海の景観の魅力を見付けよう」

5月～7月

【小プロジェクト①の課題】
瀬戸内海の景色は、他県の人にも誇れる魅力と言えるのかな。明らかにしていこう。



こえび隊の方と交流



【ゴール】
クラスが考える瀬戸内海
の景観の魅力をまとめると

ビーチコーミング体験

小単元②「瀬戸内海の生物の魅力を見付けよう」

9月～12月

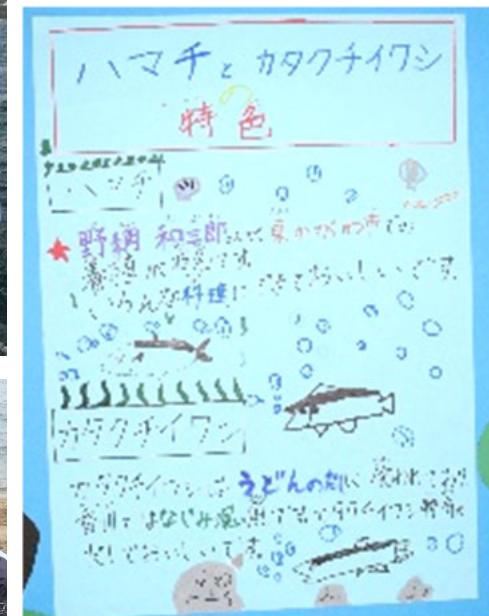
【小プロジェクト②の課題】
瀬戸内海の生物は、他県の人にも誇れる魅力と言えるのかな。明らかにしていこう。



【ゴール】
瀬戸内海の生物の生態を紹介するポスターやプレゼンテーションをする動画を制作する



調査船で海中探索



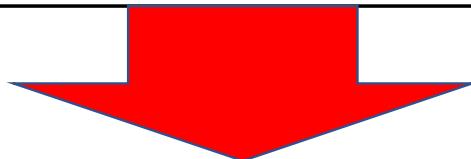
魚をとる体験

小単元③「瀬戸内海の課題を見付け、できることに取り組もう」

1月～3月

河口部の清掃活動

【小プロジェクト③の課題】
瀬戸内海の課題を見つけて、
その解消のため自分達に
できることに取り組もう。



【ゴール】
小プロジェクト②でつくった
瀬戸内海の魅力紹介コーナー^①
に海ごみ問題を加える



プラスチック
ごみ回収

小単元③「瀬戸内海の課題を見付け、できることに取り組もう」

単元と授業の開発

I 「課題の設定、活動への見通し」	2 時間	<ul style="list-style-type: none">○瀬戸内海が抱える問題にはどんなものがあるのか調べ、その解消のため、自分等にできることに取り組もうという課題設定をする。 <p>小プロジェクト②終末で、末永先生から瀬戸内海の魅力を考えていきます。瀬戸内海が抱える問題についての助言をいただく。小プロジェクト③では、瀬戸内海が抱える問題を見つけ、その解消のために出来ることを考え、実践しようという課題を設定する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"><p>【小プロジェクトの課題】 瀬戸内海が抱える問題を見つけて、その解消のため、自分等にできることに取り組もう。</p></div>
II 「現状の理解、問題点の把握」	6 時間	<ul style="list-style-type: none">○瀬戸内海が抱える問題を調べ、その解消に取り組む。 <p>瀬戸内海が抱える問題について調べる中で海ごみ問題と出会い、その解消に取り組むアーキペラゴの森田様とつながる。</p> <p>海ごみの約7割が川から流れてきたものだということを知り、河口部の清掃活動を計画、実行し、大量のペットボトル等のプラスチックごみを回収する体験を行う。</p> 
III 「深まったく課題の設定」	1 時間	<ul style="list-style-type: none">○海ごみ問題の解消には、何が大切か話し合う。 <p>海ごみ問題を解消することの根柢には、何が大切か話し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"><p>【深まったく課題】 海ごみ問題を解消するために、自分達一人一人が取り組めることは何だろう。</p></div>
IV 「多角的に考察、選択、判断」	5 時間	<ul style="list-style-type: none">○海ごみ問題を根柢から解消していくために、自分達が取り組めることを考える。 <p>C</p> <p>活動した経験をもとに、海ごみ問題を根柢から解消するためには何が大切なかを意識して、自分たち一人一人が個人レベルで取り組めることは何かを考え、選択・判断する。</p>
V 「クラスとしての最適解の表出」	6 時間	<ul style="list-style-type: none">○瀬戸内海の魅力紹介コーナーを改良する。 <p>一人一人が選択・判断したことをもとに、グループで話し合い、小プロジェクト②で作成した瀬戸内海の魅力紹介コーナーに海ごみ問題を加えて魅力紹介コーナーを改良する。</p>

子どもたちの感想を分析

感想 C (6年生児童)

海ごみのほとんどは、私たちの生活ごみです。何気なく捨てられたごみが、風に飛ばされ、川に流され、海をただよい、海ごみとなります。軽いものは、海岸にひょう着しますが、多くは海底のごみになります。瀬戸内海全体では、ものすごい量のごみが海にあることになります。

海ごみは、私たちの生活とつながっています。だから、海ごみをなくすためには、生活で出るごみをきちんと分別し、確実に処理することが大切だと思いました。当たり前のことですが、多くの人がこれを確実に実行すれば海ごみも減るのではないかと思います。

主権者意識の高まりを確認



社会に向けて発信

年間のゴール

【ゴール】

- ・商店街のデジタルサイネージを使って、瀬戸内海の魅力を動画で発信
- ・感想フォームを活用したフィードバック



商店街の
デジタルサイネージ

社会科と「ちょうせん」の時間のHさんの姿

社会科での様子

副校長先生に
ポスターを
はる許可を
もらう姿



水の大切さを
学ぶ姿
→節水放送に
つながる



「ちょうせん」の時間での様子

募金を
呼びかける
ポスターを
作成する姿



放送で募金を
呼びかける姿



社会科と「ちょうせん」の時間との関連エピソード

4年 社会科「水はどこから」

水がきれいになるまでの過程や、きれいな水の貴重性について学習した。「水を大切に」というメッセージを伝えるポスターを制作して呼びかける姿が見られた。

内容の関連

「ちょうせん」の時間 「ピース×ピースプロジェクト」

ユニセフ募金の使い道について、「水は命に直結しているから、水をきれいにする浄水剤の購入に充てたい」と、根拠をもって自分の意見を語る姿が見られた。

社会科

様々な関係機関の人をお呼びしたり、現地に見学に行ったりして調べた経験がある。「ちょうせん」の時間で関わった方から話を聞くことで、学習内容が深まった。

方法の関連

「ちょうせん」の時間

「社会科みたいに市役所の人とか、玉藻公園の人とかを呼んだりして、話を聞いたらいいと思う」と発言し、学校外の人と積極的に関わろうとする姿が見られた。



プログラム開発の成果と課題

成果

- ・問題解決過程を工夫し、学習内容をもとに選択・判断する場面をつくり出すことで、主権者として必要な資質・能力を育成することができた。
- ・学習指導要領で、選択・判断することが求められていない内容においても、主権者として必要な資質・能力を育む問題解決プロセスの有効性を検証できた。
- ・単元指導計画を作成し、社会科と「ちょうせん」の時間の関連を図りながら取り組むことが有効であることが、エピソード記録等の分析から確認できた。



プログラム開発の成果と課題

課題

- ・「自分の考えていることが、地域や社会の役に立つことがある」という実感の高まりがあまり見られなかった。
- ・社会科以外の教科等との関連を考えた年間指導計画の必要性を感じた。また、その計画をカリキュラム・マネジメントの視点に立って不斷に見直していくことも必要である。
- ・主権者としての資質・能力をどのように見取り、他教科等とどう関連させながら伸ばしていくのかについては、今後の課題である。



香川大学教育学部 附属高松小学校

ご清聴ありがとうございました



令和4年度
初等教育研究発表会

令和5年2月2日(木)
2月3日(金)

実社会プログラムに
関わる実践も
公開いたします！